

令和7年度 第5回中郷区地域協議会次第

日 時:令和7年8月25日(月)18時30分～

場 所:中郷コミュニティプラザ ホール

1 開 会

2 報 告

3 協 議

- (1) 自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について
 - ・中郷コミュニティバス「さくら号」の運行状況（資料No.1）
 - ・「子どもの い～場所開設事業」募集チラシ（資料No.2）
- (2) 新たな自主的審議事項「い～住プロジェクト」について
 - ・第4回中郷区地域協議会「い～住プロジェクト」意見まとめ（資料No.3）
- (3) 令和7年度の視察研修について
 - ・中郷区地域協議会 委員視察研修実績（資料No.4）

4 その他

5 閉 会

中郷コミュニティバス「さくら号」運行状況

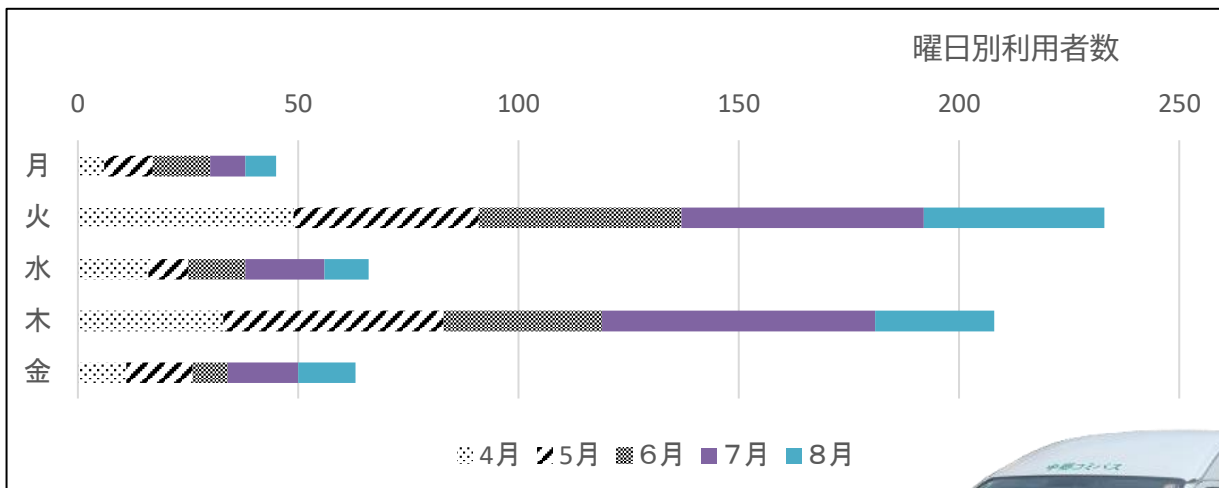
資料No. 1
中郷区地域協議会
R7. 8. 25

R7.8.22現在

回数券 販売		4月	5月	6月	7月	8月	合計	実人数 44人
	販売数	53	17	6	15	12	103 冊	
	金額	159,000	51,000	18,000	45,000	36,000	309,000 円	

利用者数	回数券	105	123	114	153	98	593 人
	現金	10	4	2	6	4	26 人
	人数計	115	127	116	159	102	619 人
	料金計	36,500	38,900	35,200	48,900	31,400	190,900 円

曜日別利用者	月	6	11	13	8	7	45 人
	火	49	42	46	55	41	233 人
	水	16	9	13	18	10	66 人
	木	33	50	36	62	27	208 人
	金	11	15	8	16	13	63 人
	計	115	127	116	159	98	615 人



月曜E 南・西地区新井病院便／北地区区内巡回便
火曜E 中・東・北地区新井病院便／東・南地区区内巡回便
水曜E 南・西地区新井買い物便／中地区区内巡回便
木曜E 中・東・北地区新井買い物便／西地区区内巡回便
金曜E 中・東・南・西地区関山便



○8月2日⊕、「なかごう夏まつり」で試験的臨時運行を実施(4件、1,200円の利用有)
16時から19時まで、会場内に受付を設け、帰宅希望者の送迎を行った。

令和7年度 上越市（中郷区）地域独自の予算事業

子どものい〜場所開設事業 参加者募集

「家や学校以外で子どもが気軽に集まり、子ども同士で自由な活動ができる場所」

そんな「居場所」を探るため、「い〜場所」を開設します。

開設時間は、放課後～午後5時30分まで、参加費は無料です。



申込みはこちらから



※開催日の10日前までに
お申込みください。

子どもの参加にあたり、次の事項をご承知おきください。

- ☐ 「い〜場所」では、大人による見守りを行いますが、基本的には子ども達の自由な時間になります。
- ☐ 通常と異なる下校になるため、校門から居場所までは中郷区まちづくり振興会が管理監督します。
- ☐ 終了時間に合わせて、保護者等のお迎えをお願いします。
お迎えに來れない場合は、中郷区まちづくり振興会が送り届けます。自宅でのお出迎えをお願いします。
- ☐ 災害発生等緊急時は、保護者等のお迎えをお願いします。
- ☐ 傷害保険に加入し保険の範囲内で対応します。けが等は応急処置のみの対応になります。

□ 問合せ 中郷区総合事務所 地域振興班 ☎74-2411
NPO法人中郷区まちづくり振興会 ☎74-2455

こ ぼしよ かいせつ じぎょう 子どもの い〜場所開設事業

がっこう お しゅくだい とも あそ
学校が終わったあとに、宿題をしたり、お友だちと遊んだり…
じぶん す す かた み たの じかん
自分の好きな過ごし方を見つけて、楽しい時間をすごしましょう！

さんか ひと そうだん き
参加するかどうかは、おうちの人と相談して決めてください。

ひと がつ にち おく
(おうちの人へ、8月28日にチラシをメールで送ります)

さんか とき も
参加する時は、このチラシを持ってきてください。



9月25日Ⓜ

かたかいじょうもんしりょうかん
片貝縄文資料館

3月9日Ⓜ

なかごう
中郷コミュニティプラザ

10月27日Ⓜ

なかごう
中郷コミュニティプラザ

2月2日Ⓜ

なかごう
中郷コミュニティプラザ

11月11日Ⓐ

なかごうそうごうたいいくかん
中郷総合体育館

1月22日Ⓜ

なかごうそうごうたいいくかん
中郷総合体育館

12月17日Ⓜ

なかごうそうごうたいいくかん
中郷総合体育館



中郷区総合事務所 地域振興班
NPO法人中郷区まちづくり振興会

☎74-2411
☎74-2455

こ ぼしよ かいせつ じぎょう 子どもの い〜場所開設事業

がっこう お しゅくだい とも あそ
学校が終わったあとに、宿題をしたり、お友だちと遊んだり…
じぶん す す かた み たの じかん
自分の好きな過ごし方を見つけて、楽しい時間をすごしましょう！

さんか ひと そうだん き
参加するかどうかは、おうちの人と相談して決めてください。

ひと がつ にち おく
(おうちの人へ、8月28日にチラシをメールで送ります)

さんか とき も
参加する時は、このチラシを持ってきてください。



9月25日Ⓜ

かたかいじょうもんしりょうかん
片貝縄文資料館

3月9日Ⓜ

なかごう
中郷コミュニティプラザ

10月27日Ⓜ

なかごう
中郷コミュニティプラザ

2月2日Ⓜ

なかごう
中郷コミュニティプラザ

11月11日Ⓐ

なかごうそうごうたいいくかん
中郷総合体育館

1月22日Ⓜ

なかごうそうごうたいいくかん
中郷総合体育館

12月17日Ⓜ

なかごうそうごうたいいくかん
中郷総合体育館

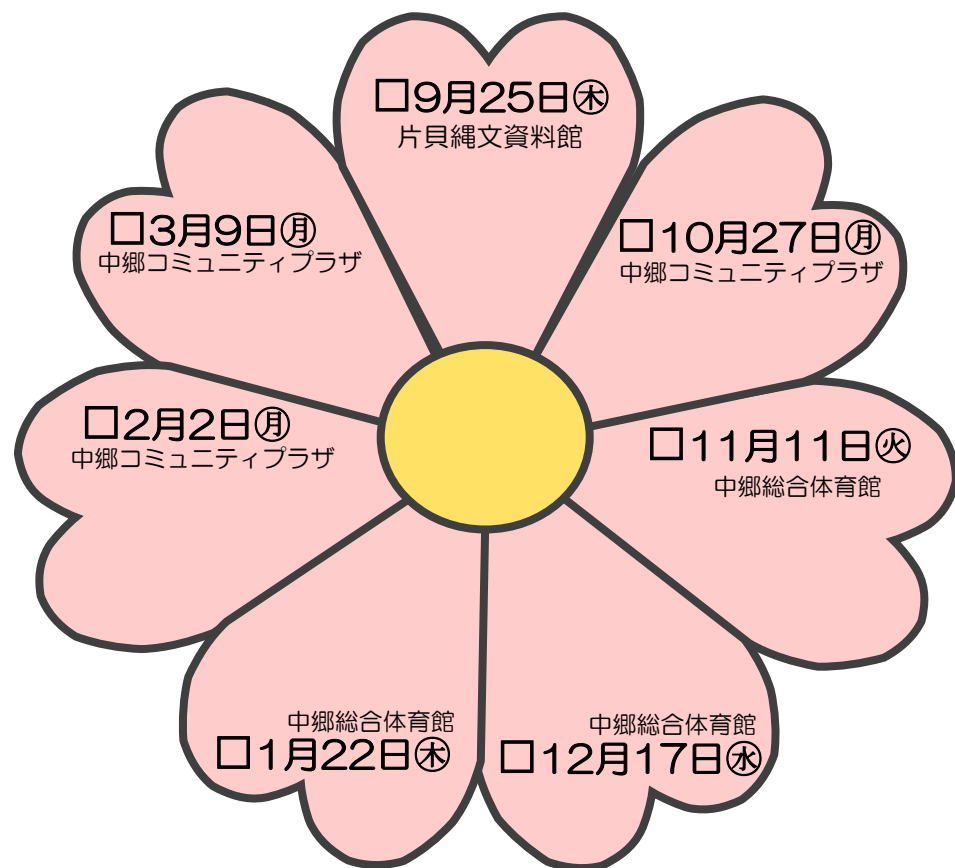


中郷区総合事務所 地域振興班
NPO法人中郷区まちづくり振興会

☎74-2411
☎74-2455

ばしょ
い〜場所 スタンプカード

ねん なまえ：

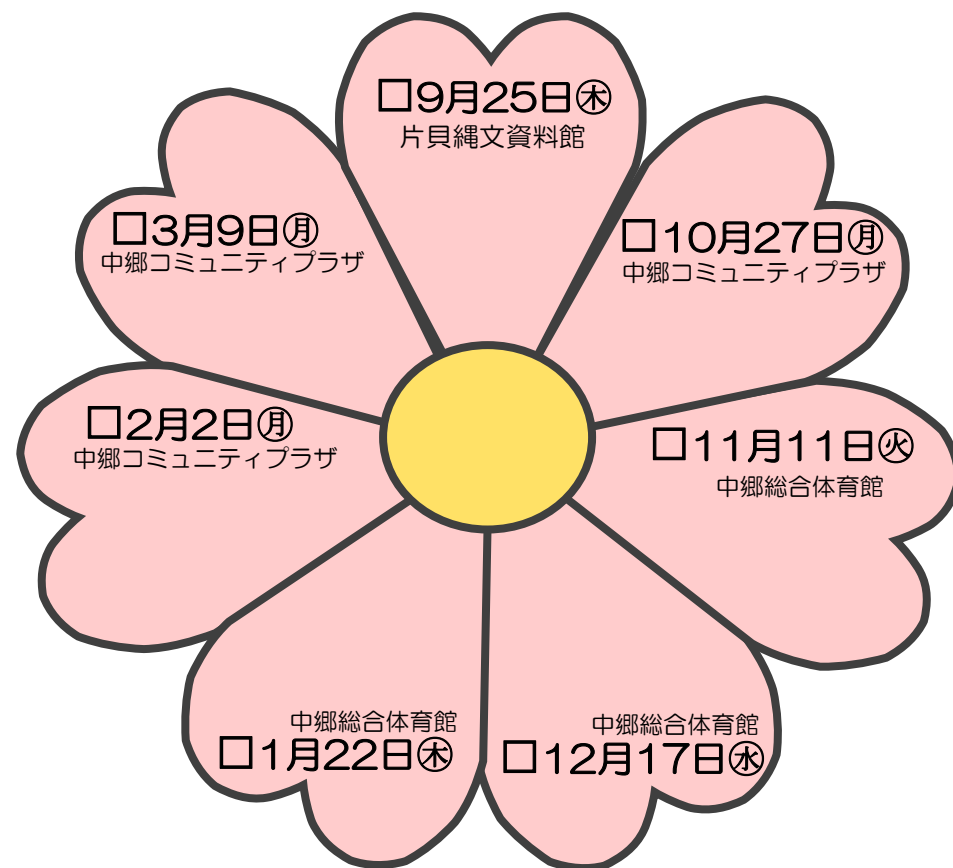


〜保護者様へ〜

参加申込みをされた日付に、チェック☑をつけてください。

ばしょ
い〜場所 スタンプカード

ねん なまえ：



〜保護者様へ〜

参加申込みをされた日付に、チェック☑をつけてください。

【プロジェクトの目標】

短期的目標（1 年以内）		長期的目標（任期中）	
情報発信 桐山委員 ウェブページを作成し、中郷区の状況を発信する。 竹内委員 ウェブページを立ち上げて情報発信を行う。 村越委員 情報発信の体制を整える。業務委託等を行うことが必要。 鹿島委員 どういう方をターゲットにするか検討し、情報発信の方法を決定する。 陸川副会長 「い〜住プロジェクト」を誰が主体となり進めていくか考える。		移住者の募集 陸川委員 移住者の募集方法について検討を行う（農業従事者への聞き取り、土地の開放等）。 村越委員 移住者を受け入れていくこと。現状だとハードルが高いか… 鹿島委員 情報発信を実施し、移住者を募る。 竹内委員 移住の募集をかけていく。 魅力の創造 陸川副会長 中郷区の推しを見つける、作る。 桐山委員 中郷区の強みを見つけて PR を行い、人口増に繋げる。 鹿島委員 他自治体の活動を参考に、情報収集を行い、運用の取込を検討する。	
状況の確認・検討 鹿島委員 移住に関する資源について確認する。 陸川委員 どのようなことを PR していくか決めて、計画を立てる。 竹内委員 空き家などの状況を確認し、どのようなことができるか意見交換する。		情報発信 陸川副会長 ウェブページや専用アプリを作成する。 竹内会長 ウェブページや、ポータルサイト、アプリ等を開設できれば良い。	

【プロジェクトの体制について】

- ・地域協議会委員の中でチーム分けをして協議を行う。
- ・若いメンバーを中心に新しい団体を立ち上げる。
- ・地域協議会委員と委員以外がチームを組んで協議を行う。プロジェクトを実行する時に、新しい団体を立ち上げる。
- ・立ち上げた団体は利益を求めるのか、ボランティアとして動くのかなど検討が必要。
- ・地域協議会である程度の目標を見据えた状態で、仲間づくりをしていきたい。

【その他】

- ・ウェブページ開設について、来年度の地域独自の予算事業の申請に間に合うように計画を立てる。
- ・移住定住について勉強する機会を設ける。
- ・コンサルタントへの依頼。
- ・情報発信は、仕事として受けてくれる方を探す。第 3 者ではなく、中郷区出身で関東圏に住んでいる若者に依頼していきたい。
- ・移住者に対して、どのような経緯で移住してきたかを聞き出す。



地元天気図WS

～ 令和5年度 上越市持続可能な地区別まちづくり支援事業 ～

大島・浦川原・牧区

地区別まちづくりワークショップ成果発表会

主催：上越市創造行政研究所

令和6年3月10日

なぜ、持続可能なまちづくりが必要なのか？

■背景

- ・近年、人口減少や高齢化が進む中、地域コミュニティの維持や生活支援、地域内、地域外との交流など、様々な地域課題への対応が求められています。
- ・そのためには、人口の安定化をはじめ、経済の面においても、環境の面においても、地域内外の多様な人材が、多様な働き方によって交流・定住することにより、持続可能なまちづくりを進めることが重要と考えています。

■事業の目的

持続可能な地域（上越市）をつくる！！

住みやすいまちをつくり、人口の安定化を目指す

市内各地での持続可能なまちづくりを進めることができるよう、地域の現状についての学び合いや課題の整理、定住促進に向けたアイデアを検討し、具体的なプランを組み立てる。

持続可能な地区別まちづくり支援事業の概要

■対象

モデル地区として、**大島・浦川原・牧区**の3地区を選定

■内容

住民ワークショップにより、**将来人口の目標設定**、地元関係図をもとにした**現状と改善箇所の検討**、その**実現に向けたアイデアの検討**などを行う。

■推進体制

所 属	体 制	役 割
モデル地区 住民	大島・浦川原・牧区 36名(各区12名) ・ベテランチーム(50～70代) 6人 ・ヤングチーム(20～40代) 6人	ワークショップ参加
総合事務所	総合事務所 職員 12名(各区4名)	会場準備、住民サポート (案内、当日ファシリテーター、 とりまとめ)
藤山所長 創造行政研究所	藤山所長 創造行政研究所 職員 4名 (モデル地区担当制)	職員サポート (当日進行、事前・事後研修)

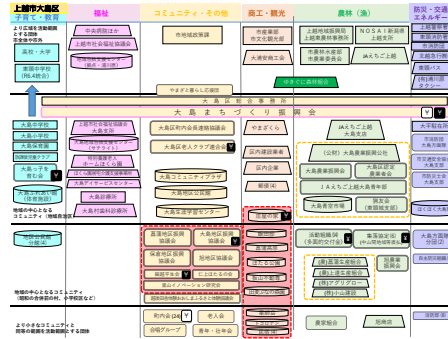
住民ワークショップ 年間プログラム

大島・浦川原・牧区をモデル
とした地区別定住戦略づくり

■10月20日 事前研修

地域自治区ごとの人口診断、地元関係図の作成

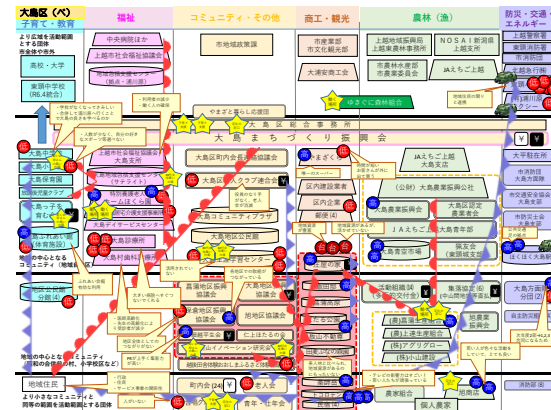
区内の人口の現状分析と将来予測、主な組織・団体・活動などについて、相互の関係や人、お金の流れ等を、一緒にまとめ、今後の地域ぐるみの定住や子育て、福祉などの事業展開に役立てていきます。



■11月13日

地域の現状を把握する「地元天気図」WS

定住を実現する上で、地域の強み、弱み、連携不足などの現状を「天気図」にまとめ、地域の現状を見える化します。



■12~2月

地域の目指す将来像を考える 定住を実現するためのアイデアを出し合う

人口の年代別の増減の背景を考え、定住を増やす上での強みと弱みを検討し、今後の定住促進の方向を考えます。



ヤングとベテランの
各6人、2グループに
分かれて話し合い

■3月10日

地域の未来について語る(成果発表)

本年度の予測や分析、検討成果を報告し、地区全体で共有し、今後の地区別定住戦略につなげていきます。



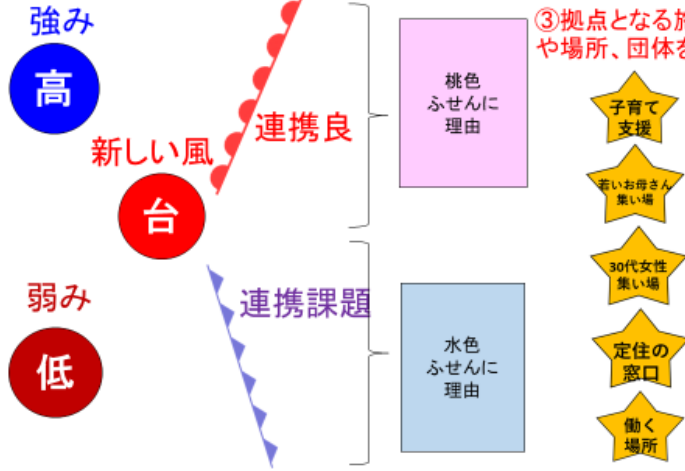
地域の現状を把握する「地元天気図」WS ■11月13日

定住を実現する上で、地域の強み、弱み、連携不足などの現状を「天気図」にまとめ、地域の現状を見える化します。

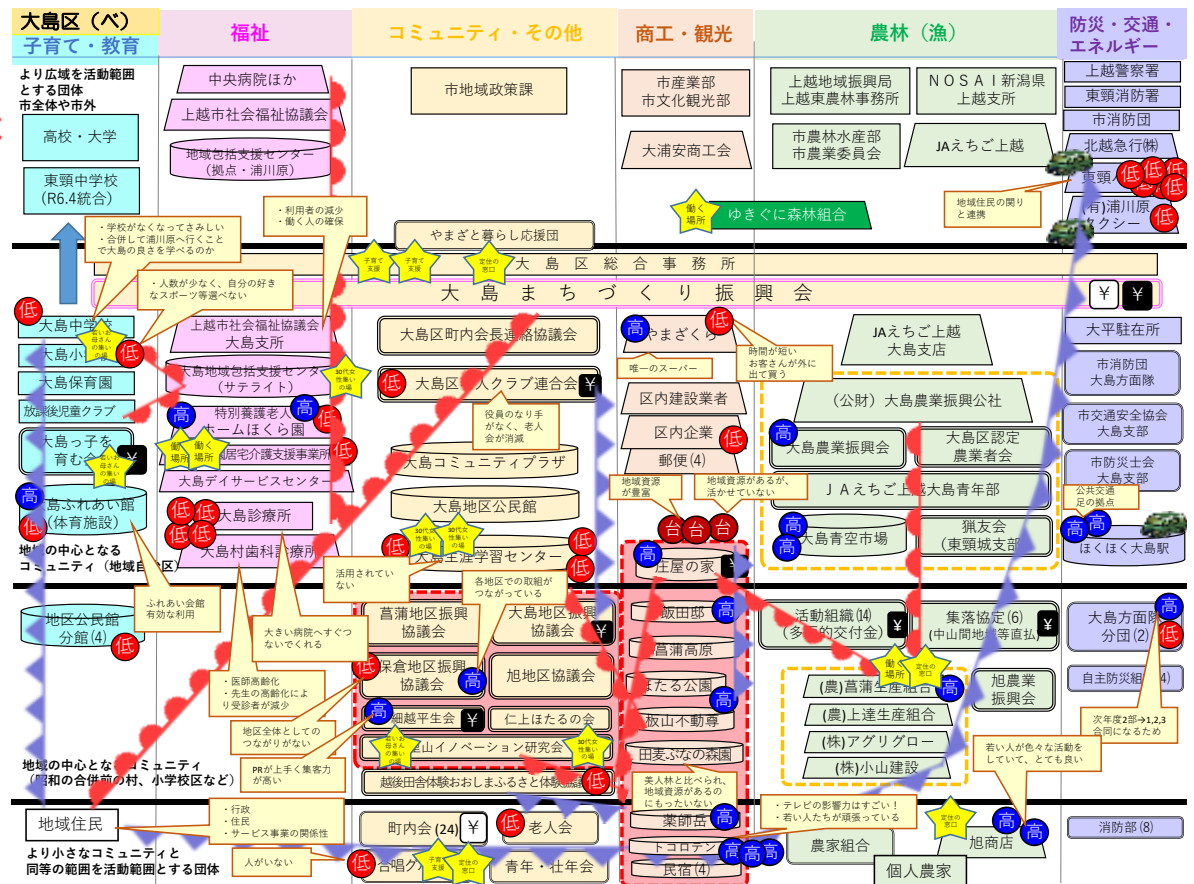
①まず、天気図マークを各自おく

②簡単に理由をふせんに書く、話す

③拠点となる施設や場所、団体をおく



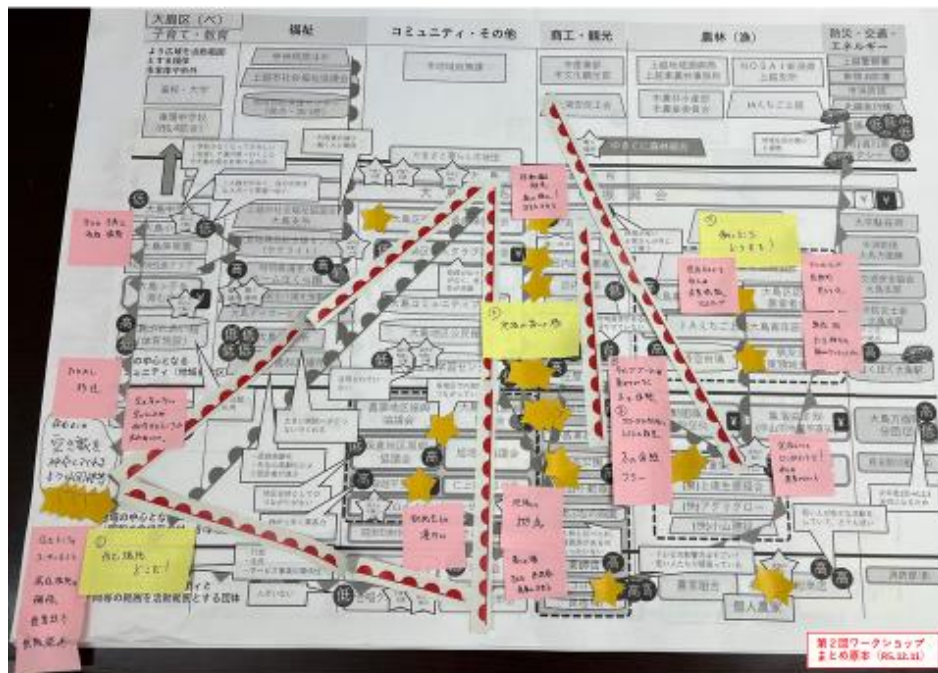
定住推進のために、どこを伸ばし、どこを改善し、どこをつなぎ直せばよいか、みんなで共有する



地域の目指す将来像を考える 定住を実現するためのアイデアを出し合う

■12～2月

人口の年代別の増減の背景を考え、定住を増やす上での強みと弱みを検討し、今後の定住促進の方向を考えます。
地元において集落ごとや分野・組織・施設ごと、そして年代ごとに存在している底力を、地域全体としてつなぎ直していくことが大切です。



現状・課題

- ・人口減少の要因として、大島区の高齢化率が高いことに伴う自然減のほか、10代後半から20代前半までにかけて、進学や就職を機に市外へ転出する若者が多い。また、20代後半から30代の子育て世代の女性の転出も多い。
- ・少子高齢化に伴い様々な担い手が不足し、自治運営やまちづくり活動が減少している。
- ・働く場所や職種が少なく、就職のため区外に転出する人が多いため、地域の活力が無くなってきている。
- ・高齢者世帯や一人暮らし世帯が多い大島区では、年々、空き家が増えている。
- ・社会変化や高齢化により地域活動の場が減少し、各種活動に関する意欲の低下やつながりが薄れてきている。

地域の魅力・特徴

- ・ほたるやぶなの森、飯田邸などほかの地域にはない魅力的な資源が大島にはある。
- ・農業に携わる法人や組織がある一方で、若い人たちが農を切り口に新たな活動に取り組んでいる。
- ・移動販売車を活用した地域巡回型の顔の見える取組を展開しながら、地域の見守りも行っている。
- ・特別養護老人ホームほくら園をはじめ、福祉施設が充実しており、それぞれの関係機関で連携が図られている。

取組の柱

★3つの柱

① 「住むところ」

② 「働くところ」

③ 「集うところ」

選ばれる地域になるための体制づくり

シート番号

⑧

チーム名

大島区ベテランチーム

○ ワンストップコーディネート窓口づくり

移住する場所(住むところ)を決めるには、移住するための情報探しがキーポイント。
そこを判断するには……**どこでどんな情報が手に入るのか、それも簡単に！**

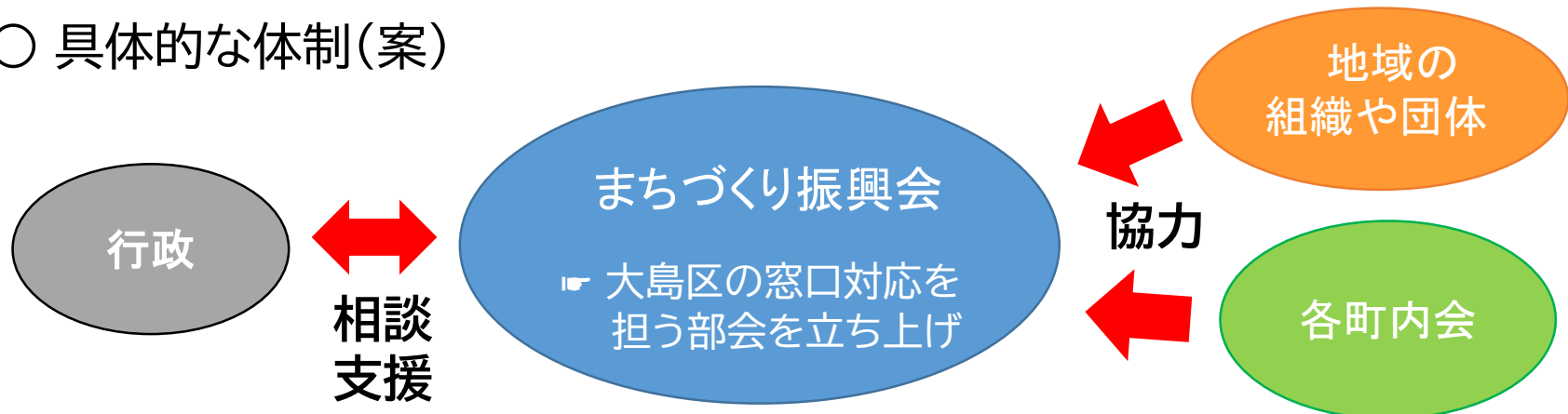


移住に関する**情報を一元化**し、**一箇所で情報収集や相談**等ができる
窓口一本化に向けた体制を検討する。

【一元化する主な項目】

- ・移住に関する情報
- ・住むところ、働くところ、地域の情報
- ・住居の情報(市営住宅、空き家等)
- ・暮らし体験イベント

○ 具体的な体制(案)



大島区の定住推進に向けて

シート番号

④

チーム名

大島区ヤングチーム

現状・課題

- ・人口減少の要因として、高齢化による自然減のほか、進学や就職、結婚を機に市外へ転出する若者が多い。
- ・あらゆる分野の担い手不足が顕著化しており、若者の参画や活動を活性化する必要がある。
- ・4地区（旧学校区）のつながりが弱い。
- ・移住や暮らしに関する情報や定住の窓口となる体制が一元化されておらず、移住定住の獲得機会を逃している。
- ・大島区の資源、観光スポットなどのPRが不足している。

地域の魅力・特徴

- ・ほたるやぶなの森、飯田邸など、ほかの地域にはない魅力がある。また、立派な「ほくほく大島駅」がある。
- ・農業に参加する若い人たちが増えてきている。
- ・細越平生会や里山イノベーションなど若い人たちによる新たな取組が展開されている。
- ・特別養護老人ホームほか、福祉施設がある。また、福祉関係の連携が図られている。

取組の柱

- ① 戻ってきたい！と思えるまちづくり
- ② 誰もが楽しめる場づくり
- ③ 大島区の情報発信

取組の概要

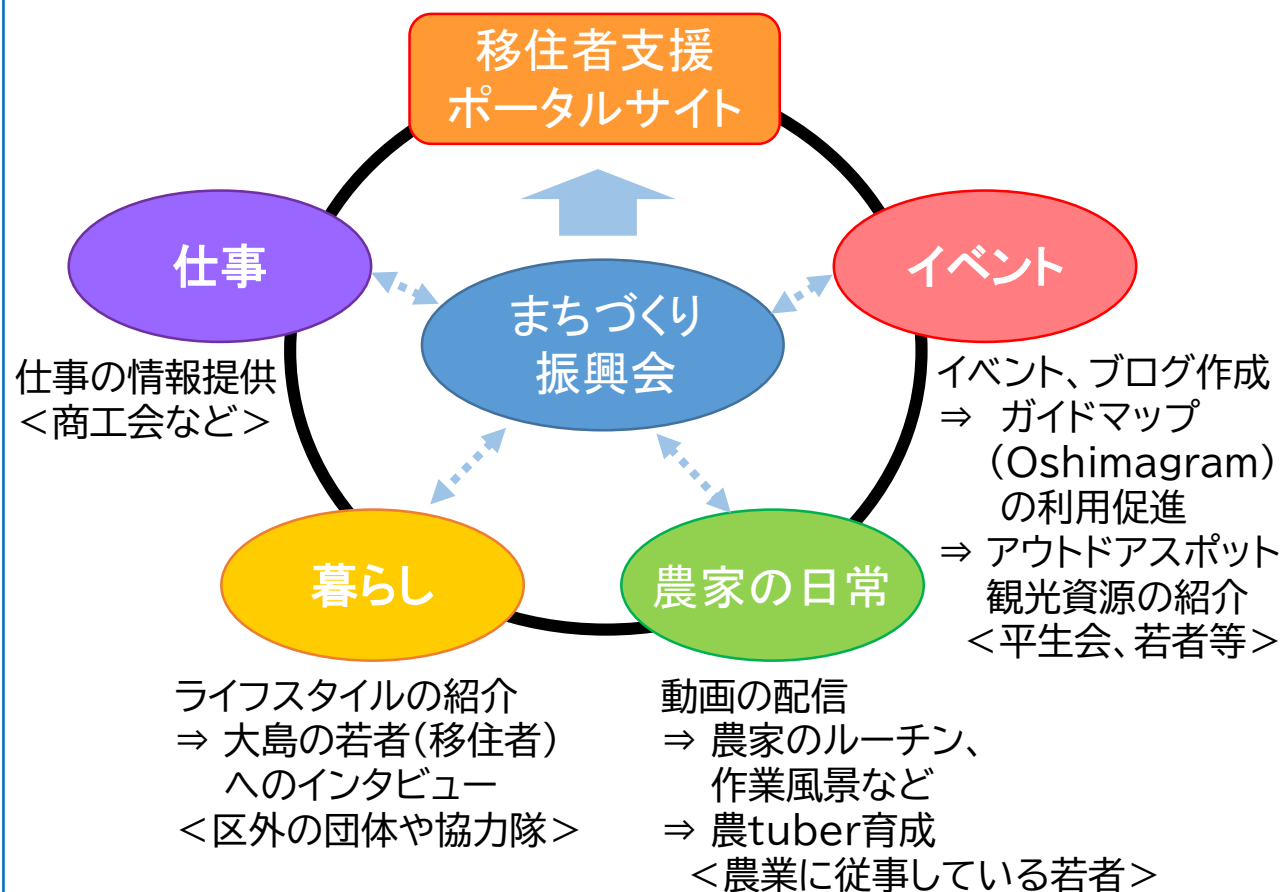
・移住を検討している人が大島区を選んでくれるように、大島区の情報発信を行う。

・まちづくり振興会が、移住者支援のポータルサイトを作成する。

・移住者が大島での生活をイメージできるようにポータルサイトを通じて、各分野ごとの情報発信を行う。

推進体制

- ・ソーシャルメディアを活用し、大島区の情報発信する。
 - ⇒ 移住者側が、具体的な移住後のライフスタイルをイメージできるよう日常の暮らしや仕事の情報を発信する。
 - ⇒ 閲覧しやすいように、移住者支援情報の窓口を一元化する。



現状・課題

- ・人口減少の要因として、10代後半から20代前半までにかけて、進学や就職を機に市外へ転出する若者が多く、その後、戻ってくる人も減少している。また、20代後半から30代の子育て世代の転出も多い。
- ・このまま放置すると、急激な人口減少と高齢化が進行する。
- ・何もしないと、小・中学生数は、10年間で半減もあり得る。
- ・移住や暮らしに関する情報や定住の窓口となる体制が一元化されておらず、移住や定住の獲得機会を逃している。
- ・まちづくりの様々な分野において、担い手不足が顕著化しており、若者の参画や活動を活性化する必要がある。

地域の魅力・特徴

- ・【強み】 農業関係の組織の充実・連携
- ・【強み】 子育て環境が整っている。
【台風】 NPO法人うらがわらスポーツクラブ
- ・【強み】 スーパーやドラッグストア、ホームセンターなど、買い物ができるところがある。
→ 若いお母さん・30代女性の集いの場、働く場所
- ・【弱み】 地区協議会や各分野の組織の関係性が薄い。
【台風】 NPO法人夢あふれるまち浦川原
→ 各組織を結びつけるハブ機能の役割

取組の柱

柱① 集いの場

浦川原に暮らしている人たちの満足度を上げないと、そこに暮らしてみたいと思う人は増えない！

まずは、地元の人たちが集い、おしゃべりしたり、子どもを遊ばせたり、学び合うなどの場を作る。

柱② おためしハウス

空き家を活用し、田舎暮らしを体験する「おためしハウス」をモデル地区や町内会で開設し、移住・定住の促進につなげる。

柱③ 情報の発信

浦川原区内の様々な情報をリンクさせ、ホームページやSNSなどで区内外へ発信する発信局を作る。

取組の概要

浦川原区内の様々な情報をリンクさせ、ホームページやSNSなどで区内外へ発信する発信局を作る。

NPO法人

夢あふれるまち浦川原

- ・区内外へ発信する発信局となる。
- ・地域の様々な組織や人への取材や情報提供を受ける。

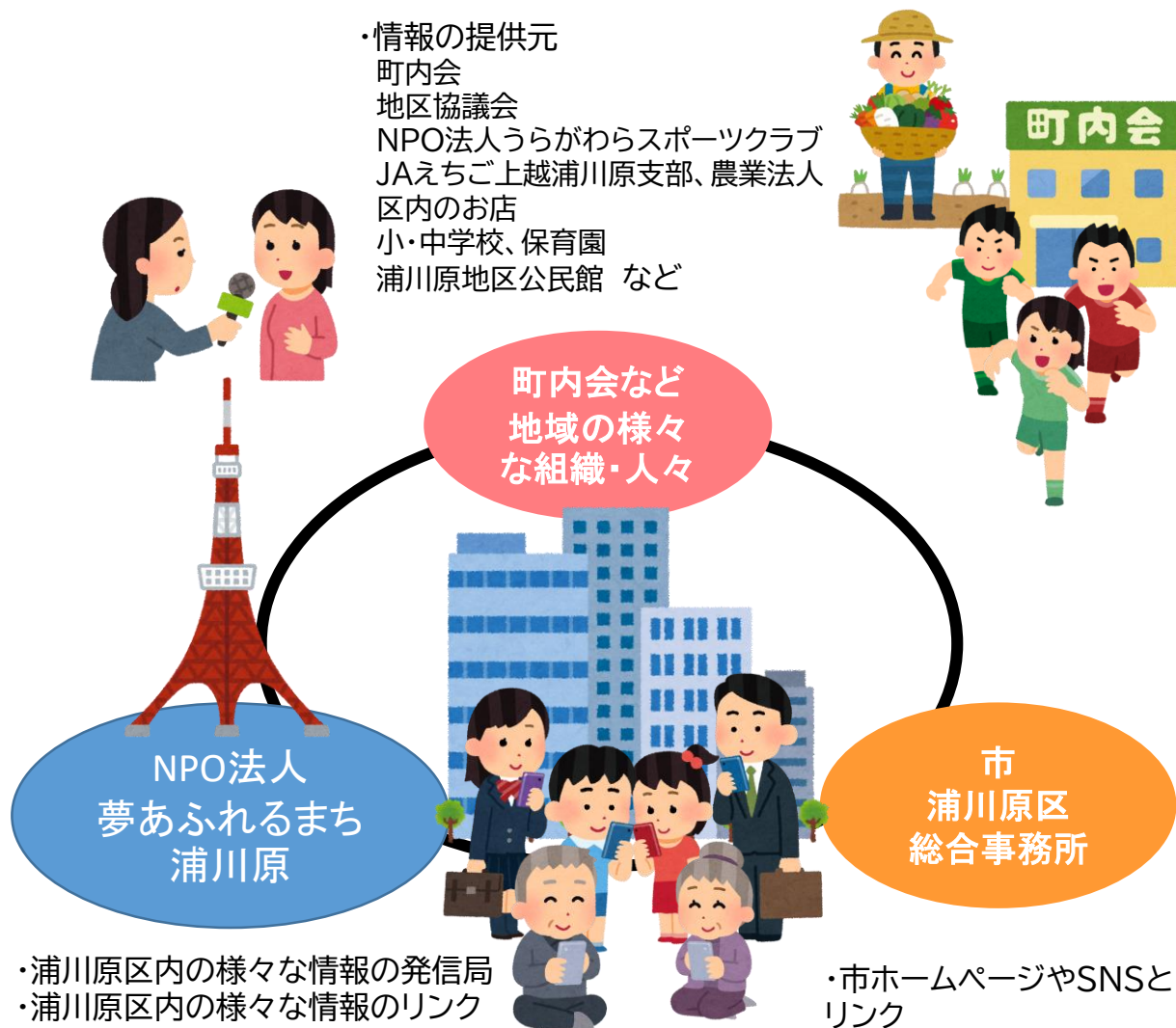
地域の様々な組織・人々

- ・情報の提供元

市・浦川原区総合事務所

- ・NPOの発信局の情報を市ホームページやSNSとリンクさせる。

推進体制



浦川原区の定住推進に向けて

シート番号

④

チーム名

浦川原区ヤングチーム

現状・課題

- ・人口減少の要因として、10代後半から20代前半までにかけて、進学や就職を機に市外へ転出する若者が多く、その後、戻ってくる人も減少している。また、20代後半から30代の子育て世代の転出も多い。
- ・このまま放置すると、急激な人口減少と高齢化が進行する。
- ・何もしないと、小・中学生数は、10年間で半減もあり得る。
- ・移住や定住に関する情報が一元化されておらず、窓口が明確になっていない。また、浦川原区の魅力を発信する場がないことから、移住や定住の獲得機会を逃している。

地域の魅力・特徴

- ・【強み】NPO法人うらがわらスポーツクラブと学校の連携、放課後児童クラブ・子育てひろば等の子育て環境
→ 子育て支援・若いお母さんの集いの場
- ・【弱み】駅周辺の盛り上がり感がイマイチ…もっとイベント等があれば…
【台風】浦川原物産館
→ 駅に隣接している環境を生かして、イベント開催や店内への飲食スペース設置により人が集まる場所に
- ・【強み】スーパーやドラッグストア、ホームセンターなど買い物できる環境が充実
→ 若いお母さんの集いの場・働く場所
- ・【弱み】区内の各分野同士の連携不足
→ 各分野を結びつけるハブ機能を担う団体が必要

取組の柱

柱① スポーツでつながる地域

子どもたちの選択肢を増やすため、様々なスポーツを体験できるような機会を作る。
地域や住民同士のつながりを作るため、誰でも気軽にできる種目の体験会などを実施しながら区内に広める。

柱② うらがわら駅周辺の充実

駅の隣という好立地を生かし、浦川原物産館にカフェや飲食スペースを設けるほか、キッチンカーや飲食店の誘致など、日常の中での楽しみを増やし、地域の人が顔を合わせる場所にする。

柱③ 情報発信のベース基地

団体等が個々に情報発信するだけでなく、誰でも発信できる仕組みと合わせて様々な情報が集まるSNSサイトを作る。

取組の概要

団体等が個々に情報発信するだけでなく、誰でも発信できる仕組みと合わせて様々な情報が集まるSNSサイトを作る。

住民組織

- 誰でも発信できる仕組みと、浦川原の様々な情報が集まる場所（ポータルサイト）を作って管理する。
- 情報発信する人をアルバイト的に雇用して内容を充実させる。
- 情報発信方法を学ぶセミナー講習を開催する。

インフルエンサー

- 区内の様々な情報を収集して発信する。

発信協力者

- インスタグラムの#（ハッシュタグ）で浦川原の良いところやイベント等を発信する。

市・総合事務所

- 地域のことが分かるマップを作成する。
- イベントや観光スポットなどに「#浦川原つけて」と掲示する。
- 移住の相談窓口を開設し専門相談員を配置する。

推進体制



牧区の定住推進に向けて

シート番号

④

チーム名

牧 区 ベ テ ラ ン チ ー ム

現状・課題

- ・ 人口減少の要因としては、10代後半から30代の成人人口が減少しているほか、年代に関係なく独身者が増加している。
- ・ 進学後、牧区に戻ってくる人が少ないことや、市内への転居による人口流出が、近年顕著になっている。
- ・ まちづくりの中心を担う人材が固定化しているほか、若者の参画や住民同士が区内で語り合う場所や機会(つながり)が減少している。
- ・ 年間を通じての雇用環境が少ない。

地域の魅力・特徴

- ・ NPO法人を核にしたまちづくりが行われていて、一部の団体とのつながりが強固である。
- ・ 農業関係の団体が多く、集落単位をベースにした営農活動が活発である。
- ・ 近年、カフェなど小規模なお店の出店があり、それぞれ地域の特徴をいかした営業を展開している。
- ・ 宿泊施設や、宴会場など比較的大規模の施設があることや、区内定額のコミュニティーバスなど特徴的な取組があるが、相乗効果が不足している。



取組の柱

柱① 働く場（雇用）の確保

- ・ 農業法人と地元建設業者との連携
- ・ 小規模店のタッグ

柱② 生活基盤（店舗）の充実

- ・ 既存店舗の多角的商品の取り扱い
- ・ 移動販売の実施
- ・ 地元野菜等の販売促進

柱③ 情報発信の充実

- ・ 牧区ご当地キャラクターによる発信
- ・ YouTubeを活用し農業、郷土食、暮らし等の情報発信

取組の概要

【なんでも実行(企画)委員会】新設

- ・ ホームページ開設
- ・ キャラクターによる情報発信
ご当地キャラクターを作り、地域のイベントや特産品のPR等で積極的に活用する。(YouTubeなど)
- ・ 牧っていいね！体験ツアーの企画
風景、イベント、農業・食、田舎体験

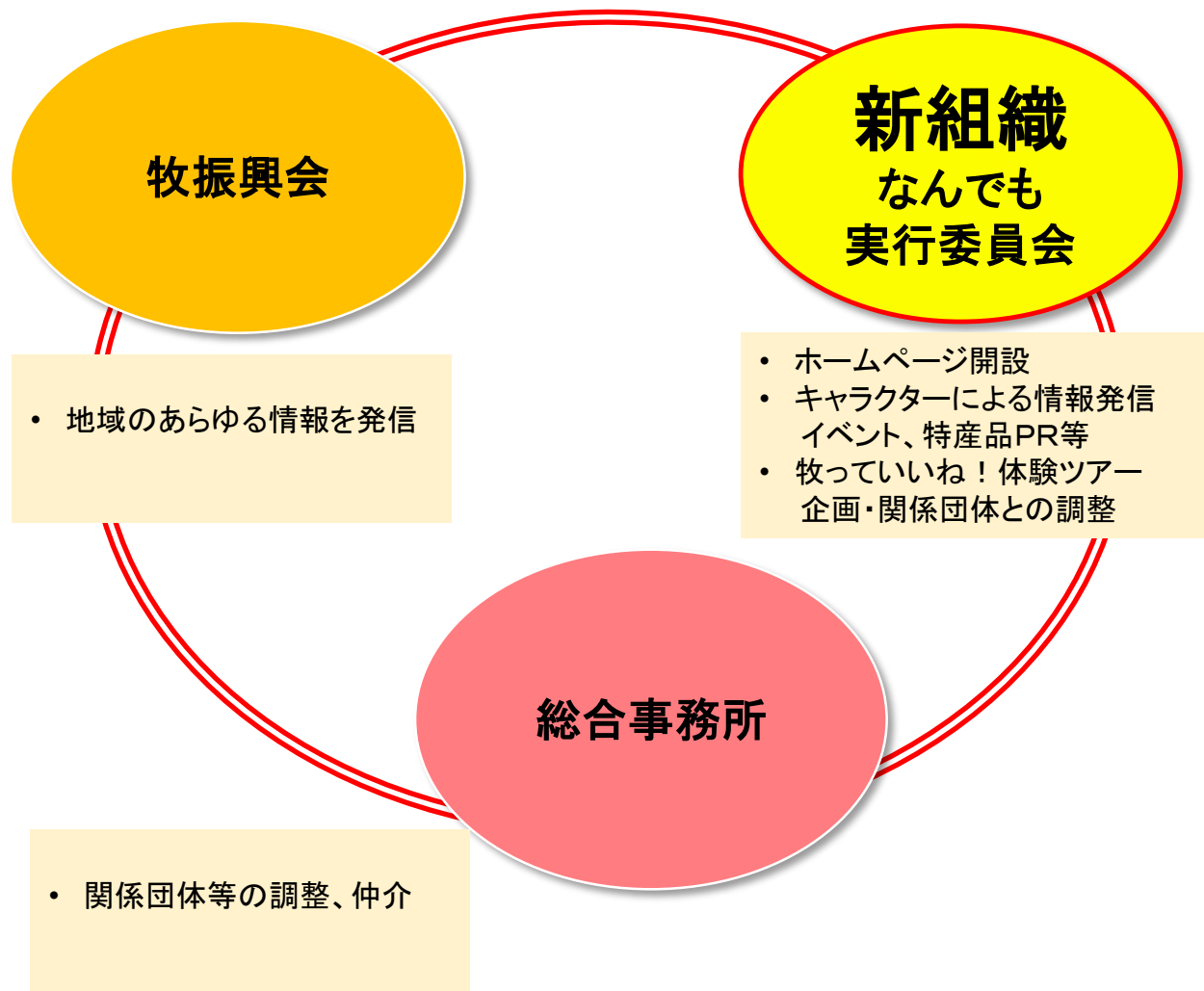
【牧振興会】

- ・ 既存のホームページとのリンク
- ・ 地域の情報提供

【総合事務所】

- ・ 関係団体等の調整、仲介

推進体制



牧区の定住推進に向けて

シート番号

④

チーム名

牧 区 ヤ ン グ チ ー ム

現状・課題

- ・ 人口減少の要因としては、10代後半から30代の成人人口が減少しているほか、年代に関係なく独身者が増加している。
- ・ 進学後、牧区に戻ってくる人が少ないことや、市内への転居による人口流出が、近年顕著になっている。
- ・ まちづくりの中心を担う人材が固定化しているほか、若者の参画や住民同士が区内で語り合う場所や機会(つながり)が減少している。
- ・ 組織は多いが、参集するメンバーは同じ顔触れのことが多く、マンネリ化も見られている。

地域の魅力・特徴

- ・ NPO法人を核にしたまちづくりが行われていて、一部の団体とのつながりが強固である。
- ・ 農業関係の団体が多く、集落単位をベースにした営農活動が活発である。
- ・ 近年、カフェなど小規模なお店の出店があり、それぞれ地域の特徴をいかした営業を展開している。
- ・ 宿泊施設や、宴会場など比較的規模の大きい施設があることや、区内定額のコミュニティーバスなど特徴的な取組があるが、相乗効果が不足している。



取組の柱

柱① 子育て環境の充実

- ・ 地域⇔子ども⇔学校 つながり定着
- ・ 地域の達人・名人バンクの作成・交流
- ・ 地元学を波及 (ないものねだり→あるもの探し)
- ・ 集まれる場所を確保し、イベント開催

柱② 移住・定住の窓口強化

- ・ 移住・定住窓口の明確化、強化
- ・ 空き家MAPの作成及びバンク化
- ・ 情報の集約・発信
- ・ 移住体験メニューの企画・実行

柱③ 生活基盤の充実 (買い物・働く場所・娯楽)

- ・ 買い物できる場所 (子ども用品、コインランドリー)
- ・ 現農業組織をアジャスト (調整) する
新組織の設立
- ・ 女性が働ける場所
- ・ 旧飲食店舗を活用したお店の出店等
(くびき牛の焼肉店など)
- ・ 各地域の産物の直売マルシェの開催

牧区で来年度取組む内容

ヤング・ベテラン共通

シート番号

⑧

チーム名

牧区ヤング・ベテランチーム

全国

牧区

【地区まちWSメンバー】
なんでも
企画委員会

【新組織】
(仮)牧総合商社

※設立前は、なんでも企画委員会が主催

ホームページ・
SNSによる
情報発信

作成

企画・実行

企画

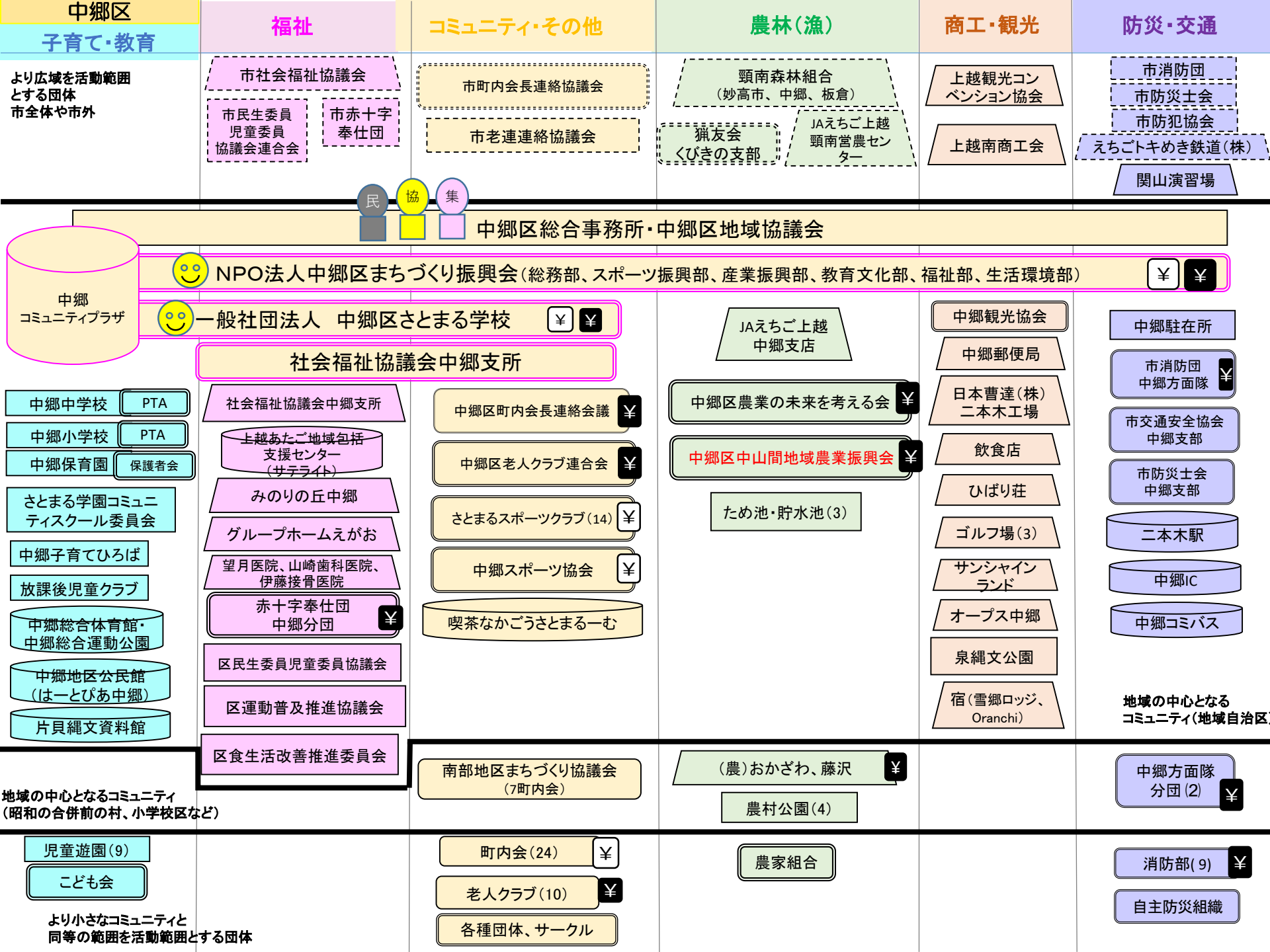
移住者・定住者増

牧マルシェの
開催

牧おためし
体験ツアー

- ・通年開催
- ・開催場所の検討
- ・参加団体等との調整
- 【内容の検討】
- ・食の提供、産物販売、体験イベントなど

- ・受付団体の明確化
- ・体験受入れ団体との調整
- ・体験メニューの検討
- ・空き家情報の提供
- ・移住者の確保を意識した内容



中郷区地域協議会 委員視察研修実績（平成30年度～）

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
月日	平成30年11月1日 (木)	令和1年10月31日 (木)	令和2年11月24日 (火)	令和3年11月9日 (火)	令和4年11月18日 (金)	令和5年12月9日 (土)	令和6年12月2日 (月)
行先	大島区、牧区、JAえち ご上越農協	中郷区内	中郷区内	高田駐屯地、中郷区内	長野県小布施町	(会場) はーとぴあ中郷 研修室	長野県千曲市
視察した施設等	①(農)菖蒲生産組合 ②(農)みずほ ③妙高はねうまカントリーエレベーター	—	①雪郷base ②雪郷ロッジ ③日曹二本木工場	①駐屯地記念館 ②駐屯地厚生センター ③区内通学路危険箇所	①小布施周遊バス乗車 ②小布施町散策 ③小布施町役場		ユースセンターファボ プレイス (子どもの居 場所)
内容	①②集落営農の法人化 の経緯、現在の運営に ついて ③新設されたカントリー エレベーターの視察	自主的審議事項の 現地視察で夕日ヶ 丘の状況確認と台 風19号による区内 の被害箇所の状況 確認	①②雪郷プロジェクト の取組について視察 日曹二本木工場の最新 の事業状況等について 視察	①②高田駐屯地視察 ③さとまる学校で確認 した通学路の危険箇所 情報の共有	①バス運行体験、運行 状況の視察 ②住民ぐるみの景観づ くり視察 ③まちづくりに関する 行政の取組について、 小布施町担当者との意 見交換	①ニュースレター創造 行政No52に記載され た「神山村から学ぶま ちづくりのポイント」に ついて、創造行政研究 所 内海副所長から講 義を受けた。 ②委員と内海副所長と の意見交換	子どもの居場所ユース センターファボプレイ スの見学と運営する一 般社団法人オレンジ ファムからの説明と意 見交換により知見を高 めた。
備考		津南町への視察を 予定していたが、 台風21号による津 南町での被害によ り中止	コロナ禍のため区内 での対応とした	コロナ禍のため区内 での対応とし、関山演 習場の視察を希望し たが演習訓練中につき 日程調整できず高田駐 屯地に変更		視察なし（先進事例 である神山村の事例 詳細についての学習会）	